



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月12日

上場会社名 そーせいグループ株式会社

上場取引所 東

コード番号 4565 URL <http://www.osei.com/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長(兼取締役)CEO (氏名) 田村 眞一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役副社長 経営管理部門担当 (氏名) 虎見 英俊

TEL 03-5210-3290

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,851	△0.5	△479	—	△553	—	△403	—
25年3月期第3四半期	1,861	123.1	△331	—	△305	—	△200	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 △193百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △168百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△33.76	—
25年3月期第3四半期	△16.93	—

(注) 当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	6,554	6,371	93.7	513.20
25年3月期	6,794	6,511	89.7	511.14

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 6,142百万円 25年3月期 6,093百万円

(注) 当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,100	7.2	△1,150	—	△1,180	—	△1,000	—	△83.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	11,968,100 株	25年3月期	11,921,900 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	— 株	25年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	11,951,542 株	25年3月期3Q	11,848,964 株

(注)当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成26年1月31日に業績予想の修正を公表いたしました。

2. 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	7
第3 四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、日本及び英国の子会社を中心にグローバルに医薬品の研究開発事業を展開しており、主な収益源は、開発の進展に応じて導出・販売提携先より当社グループに支払われるマイルストーン収入やロイヤリティ並びに医薬品の販売による収入等です。

当第3四半期連結累計期間の経営成績及び分析は次のとおりです。

#### ①業績の状況

##### a. 連結経営成績

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額
売上高	1,861	1,851	△10
売上総利益	1,575	1,666	91
営業利益（△損失）	△331	△479	△148
経常利益（△損失）	△305	△553	△248
四半期純利益（△損失）	△200	△403	△202

#### (売上高、売上総利益)

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前第3四半期連結累計期間とほぼ同額の1,851百万円となりました。主な内容はウルティプロ<sup>®</sup>の欧州及び日本における製造販売承認取得に伴うマイルストーン収入及びシーブリ<sup>®</sup>のロイヤリティ収入です。

※シーブリ及びウルティプロの日本における製品名は、シーブリ<sup>®</sup>吸入用カプセル50 $\mu$ g、ウルティプロ<sup>®</sup>吸入用カプセルで、日本以外における製品名は、シーブリ<sup>®</sup>ブリーズヘラー<sup>®</sup>、ウルティプロ<sup>®</sup>ブリーズヘラー<sup>®</sup>であり、ノバルティス社の登録商標です。

#### (営業損益)

当第3四半期連結累計期間の営業損益は479百万円の損失となりました。前第3四半期連結累計期間との差は、主に販売費及び一般管理費の増加によるものです。なお、販売費及び一般管理費の内訳については「b. 販売費及び一般管理費の内訳」に記載のとおりです。

#### (経常損益)

当第3四半期連結累計期間の経常損益は553百万円の損失となりました。前第3四半期連結累計期間との差は、主に為替差損の発生によるものです。

#### (四半期純損益)

当第3四半期連結累計期間の四半期純損益は403百万円の損失となりました。前第3四半期連結累計期間との差は、主に経常損益の差によるものです。

##### b. 販売費及び一般管理費の内訳

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額
のれん償却額	1,191	1,191	—
研究開発費	258	375	117
その他	458	580	122
販売費及び一般管理費合計	1,907	2,146	239

#### (販売費及び一般管理費)

当第3四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費合計は、前第3四半期連結累計期間に比べ12.5%増加し、2,146百万円となりました。これはSO-1105のⅢ相臨床試験関連費用及び新規事業の準備費用が発生したことによるものです。

c. 為替差損の発生に関する事項

当第3四半期連結累計期間において為替差損134百万円を計上いたしました。これは主として在外子会社の外貨建て債権及び外貨建て預金における為替差損です。

d. 助成金収入の発生に関する事項

当第3四半期連結累計期間において助成金収入10百万円を計上いたしました。これはナノ粉碎技術APNTを用いた医薬品開発に係る助成金収入です。

e. 研究開発負担金収入の発生に関する事項

当第3四半期連結累計期間において研究開発負担金収入47百万円を計上いたしました。これはノルレボ<sup>®</sup>錠0.75mgの製造販売承認承継に伴う負担金収入です。

f. セグメントの業績

(国内医薬事業)

当第3四半期連結累計期間における国内医薬事業の売上高は429百万円となりました。前第3四半期連結累計期間との差は、主に日本における緊急避妊薬の売上高の減少と当第3四半期連結累計期間に発生したノルレボ<sup>®</sup>錠0.75mgのあすか製薬株式会社への承継に伴うマイルストーン収入の差額によるものです。なお、営業損失は269百万円となりました。

(海外医薬事業)

当第3四半期連結累計期間における海外医薬事業の売上高は1,421百万円となりました。前第3四半期連結累計期間との差は、主に外貨建てマイルストーン収入の換算時レート差及びロイヤリティ収入の発生によるものです。なお、営業損失は87百万円となりました。

②研究開発活動

当第3四半期連結累計期間においては、SO-1105（口腔咽頭カンジダ症）の第Ⅲ相臨床試験の実施及びナノ粉碎化技術（APNT）の実用化に向けた開発推進に注力致しました。これにより研究開発費は375百万円（前年同四半期比45.4%増）となりました。また、ノバルティス・インターナショナルAG（以下、「ノバルティス社」）により開発されたCOPD治療薬QVA149は、平成25年9月に日本及び欧州において世界初のLAMAとLABAの配合剤として承認され、11月に販売が開始されました。なお、NVA237及びQVA149は導出先のノバルティス社によって開発が進められており、当社グループには開発費用負担は生じません。

各開発品等の進捗に関するセグメント別の詳細は次のとおりです。

a. 国内医薬事業

■ SO-1105 適応：口腔咽頭カンジダ症

開発段階：第Ⅲ相臨床試験中

SO-1105は免疫が低下した患者等に発症する口腔咽頭カンジダ症を治療する口腔粘膜付着性の抗真菌剤です。薬効成分を長時間持続的に放出する国内初の口腔粘膜付着型ドラッグデリバリーシステムにその特徴があります。口腔咽頭カンジダ症とは、真菌に属する主として*Candida albicans*（カンジダ・アルビカンス）の感染により引き起こされる口腔及び炎症性粘膜疾患であり、HIV感染等による免疫不全患者や糖尿病のような慢性的な疾病の患者に多く見られます。

本剤は、バイオアリアンス・ファルマ（以下、「バイオアリアンス社」）が開発し、平成18年10月にフランスで初めて承認を取得して以来、現在までに欧州の24ヵ国、米国や韓国において承認されております。当社グループは、本剤を日本でも患者様の利便性に貢献することができる製品と判断し、SO-1105の日本における独占開発販売権を、平成23年5月にバイオアリアンス社より取得しております。

現在は、本開発品の有効性及び安全性を検証する第Ⅲ相臨床試験が進行中です。

また、当社は平成26年2月4日付で、富士フィルムファーマ株式会社と国内における独占販売に係る契約を締結致しました。

#### ■ A P N T (Activus Pure Nano-particle Technology) : ナノ粉碎化技術

平成22年8月に株式会社アクティバスファーマは当社の100%子会社となりましたが、以来、新しい体制でナノ粉碎技術(以下、「A P N T」)の向上、実用化を目指し、日々研究開発を進めております。平成25年7月には当社技術の基本特許の一つが本邦でも特許査定されましたが、今後も各国での特許成立に注力するとともに、引き続き技術基盤の強化を進めて参ります。A P N Tは、難溶性の医薬品原料を不純物の混入を最小限に防ぎつつ、50-200nm(ナノメートル)レベルの結晶粒子径に粉碎することが可能であり、既存技術に比べて優れた技術です。この特徴を活かし、これまで開発が困難であった難溶性薬物の注射、点眼、吸入製剤への応用を進めております。本技術の実用化応用について、平成23年8月から平成25年2月の間、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、「N E D O」)のイノベーション推進事業に係る助成事業に採択され、更に続けて平成25年4月から平成26年2月の期間もN E D Oのイノベーション実用化ベンチャー支援事業(平成24年度補正予算事業)に採択されております。これらの公的支援に加え、医薬品の製造販売に多くの実績とノウハウを持つ東亜薬品株式会社と、同社の子会社である日東メディック株式会社の協力のもと、優れた医薬品を早期に患者様の元へ届けるべく努めております。

A P N Tの医薬品応用として、現在当社ではナノ粒子を応用した新規後眼部疾患治療薬の研究開発を進めております。後眼部疾患とは主に糖尿病性網膜症や加齢黄斑変性症等の網膜疾患であり、これらは中途失明などの視覚障害の主要な原因となります。本研究では既存の治療方法とは異なり、点眼剤でありながら後眼部に効率的に薬物を送達しうる製剤を開発し、患者様の利便性の向上を目指しております。

また、より早い実用化を目指し、前眼部疾患への薬剤開発についても注力しております。とりわけ、細菌やウイルスなどによって引き起こされる感染性角膜炎や感染から誘導される結膜炎などの治療薬開発に着手しております。

各社との共同研究・開発の進捗については、特許戦略等の観点から具体的な内容等、詳細を開示しておりませんが、眼科用剤等の分野で、A P N Tの技術特色が最大限発揮できる製品を開発するべく研究を進めております。

#### b. 海外医薬事業

##### ■ N V A 2 3 7 適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)上市済み(欧州・日本)、第Ⅲ相臨床試験中(米国) 適応：喘息 第Ⅲ相臨床試験中

N V A 2 3 7(一般名：グリコピロニウム臭化物、製品名：Seebri<sup>®</sup> Breezhaler<sup>®</sup>(欧州)、シーブリ<sup>®</sup>吸入用カプセル50 $\mu$ g(日本)(以下、「シーブリ」))は長時間作用性抗コリン薬(LAMA)であり、当社とベクチュラ・グループは平成17年4月にノバルティス社に全世界の独占的開発・販売権を導出しております。1日1回吸入の「シーブリ」は、平成24年9月に欧州と日本において慢性閉塞性肺疾患(Chronic Obstructive Pulmonary Disease、以下「COPD」)の諸症状を緩和するための気管支拡張剤として承認された後、オーストラリア及びカナダを含む50カ国以上においても承認されました。現在は、ドイツ、日本その他主要な市場において販売されております。

なおノバルティス社は、平成25年度業績報告書において米国における「シーブリ」の承認申請時期を平成26年第4四半期(10月~12月)へと変更致しました。また同日、N V A 2 3 7の喘息での適用拡大に向けた第Ⅲ相臨床試験を開始したと発表致しました。

##### ■ Q V A 1 4 9 適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)上市済み(欧州・日本)、第Ⅲ相臨床試験中(米国)

Q V A 1 4 9(一般名：グリコピロニウム臭化物/インダカテロールマレイン酸塩、製品名：Ultibro<sup>®</sup> Breezhaler<sup>®</sup>(欧州)、ウルティプロ<sup>®</sup>吸入用カプセル(日本)(以下、「ウルティプロ」))は長時間作用性抗コリン薬(LAMA)であるグリコピロニウム臭化物(N V A 2 3 7)と長時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬(LABA)であるインダカテロールマレイン酸塩の固定用量の配合剤です。「ウルティプロ」は、IGNITE第Ⅲ相臨床試験プログラムで、COPDの維持療法として開発されました。

1日1回吸入の「ウルティプロ」は、平成25年9月に欧州と日本においてCOPDの諸症状を緩和するための気管支拡張剤として承認された後、カナダにおいても承認されました。現在は、ドイツ、オランダ、デンマーク、アイルランド、日本において販売されております。LAMAとLABAの有効性と安全性の特徴を併せ持つ配合剤である「ウルティプロ」は、新たな標準治療薬として確立されることが期待されています。

ノバルティス社は米国におけるQ V A 1 4 9の承認申請を平成26年第4四半期(10月~12月)に予定していると発表しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ240百万円減少し、6,554百万円となりました。主な減少要因は、ノバルティス社からのマイルストーン収入等の受領により現金及び預金が755百万円増加した一方で、Sosei R&D Ltd. 買収に係るのれんの償却額が1,191百万円発生したことです。なお、のれんの残高は、当第3四半期連結会計期間末において2,646百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における現金及び預金は、前連結会計年度末に比べ755百万円増加し、3,293百万円となりました。なお、流動資産の総資産に占める比率は54.6%、現金及び預金の流動資産に占める比率は92.0%です。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ100百万円減少し、182百万円となりました。主な減少要因は、緊急避妊薬の仕入による買掛金の減少115百万円です。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ140百万円減少し、6,371百万円となりました。主な減少要因は、四半期純損失403百万円です。また、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ4.0ポイント増加し、93.7%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は平成26年1月31日に業績予想の修正を公表致しました。修正の主な理由は、ノバルティス社へ導出しているNV A 2 3 7の米国における承認申請の予定時期が来期に変更されたことに合わせて、承認申請に伴うマイルストンの受領予定時期を来期に変更したことです。修正後の業績予想の内容については次のとおりです。

売上高は、緊急避妊薬の販売収入、ウルティプロのマイルストーン収入及びシーブリのロイヤリティ収入があるものと予測致します。また、NEDOからの助成金の収入を営業外収入として見込んでおります。その結果、通期の業績予想は、売上高2,100百万円、営業損失1,150百万円、経常損失1,180百万円、当期純損失1,000百万円になるものと予測致します。

なお、平成25年5月14日の決算短信で発表しました通期の連結業績予想と平成26年1月31日に公表致しました予想値の差異は以下のとおりです。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,850	△400	△300	△300	△25 16
今回修正予想 (B)	2,100	△1,150	△1,180	△1,000	△83 67
増減額 (B - A)	△750	△750	△880	△700	—
増減率 (%)	△26.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	1,958	△953	△788	△646	△54 54

## 2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間より、そーせいコーポレートベンチャーキャピタル株式会社を新規設立したことにより、連結の範囲に含めております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,537,527	3,293,134
売掛金	43,572	157,500
その他	33,632	129,180
流動資産合計	2,614,733	3,579,815
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,452	2,129
機械装置及び運搬具（純額）	32,309	24,489
工具、器具及び備品（純額）	20,199	16,709
有形固定資産合計	54,961	43,328
無形固定資産		
のれん	3,837,905	2,646,831
その他	252,404	249,764
無形固定資産合計	4,090,309	2,896,595
投資その他の資産		
その他	34,782	34,316
投資その他の資産合計	34,782	34,316
固定資産合計	4,180,053	2,974,240
資産合計	6,794,786	6,554,055
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	161,785	46,656
未払金	59,869	79,077
未払費用	25,168	31,259
未払法人税等	8,987	3,895
その他	27,148	21,573
流動負債合計	282,959	182,461
負債合計	282,959	182,461
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,059,203	17,103,615
資本剰余金	18,979,943	19,024,355
利益剰余金	△31,228,973	△31,632,453
株主資本合計	4,810,172	4,495,517
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,283,642	1,646,553
その他の包括利益累計額合計	1,283,642	1,646,553
新株予約権	236,238	200,578
少数株主持分	181,773	28,944
純資産合計	6,511,827	6,371,593
負債純資産合計	6,794,786	6,554,055

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,861,499	1,851,476
売上原価	285,707	184,557
売上総利益	1,575,792	1,666,918
販売費及び一般管理費	1,907,351	2,146,641
営業損失(△)	△331,559	△479,723
営業外収益		
受取利息	436	2,051
有価証券売却益	4,596	—
為替差益	3,577	—
助成金収入	17,733	10,307
研究開発負担金収入	—	47,619
その他	44	157
営業外収益合計	26,387	60,135
営業外費用		
為替差損	—	134,389
営業外費用合計	—	134,389
経常損失(△)	△305,171	△553,977
特別利益		
新株予約権戻入益	31,175	—
特別利益合計	31,175	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△273,995	△553,977
法人税、住民税及び事業税	2,332	2,331
法人税等合計	2,332	2,331
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△276,328	△556,308
少数株主損失(△)	△75,695	△152,829
四半期純損失(△)	△200,633	△403,479
少数株主損失(△)	△75,695	△152,829
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△276,328	△556,308
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,419	—
為替換算調整勘定	109,206	362,910
その他の包括利益合計	107,787	362,910
四半期包括利益	△168,541	△193,398
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92,846	△40,568
少数株主に係る四半期包括利益	△75,695	△152,829

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業 (千円)	海外医薬事業 (千円)	合計 (千円)
売上高			
外部顧客への売上高	465,682	1,395,816	1,861,499
計	465,682	1,395,816	1,861,499
セグメント利益又は損失(△)	△240,328	199,025	△41,303

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額 (千円)
報告セグメント計	△41,303
全社費用(注)	△354,065
その他調整額	63,810
四半期連結財務諸表の営業損失(△)	△331,559

(注) 全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社に係る費用です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業 (千円)	海外医薬事業 (千円)	合計 (千円)
売上高			
外部顧客への売上高	429,703	1,421,772	1,851,476
計	429,703	1,421,772	1,851,476
セグメント損失(△)	△269,532	△87,162	△356,694

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額 (千円)
報告セグメント計	△356,694
全社費用（注）	△436,707
その他調整額	313,678
四半期連結財務諸表の営業損失（△）	△479,723

（注）全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社に係る費用です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

（重要な後発事象）

富士フィルムファーマ株式会社との販売提携契約締結について

当社連結子会社の株式会社そーせい（以下、「そーせい」）は、平成26年1月30日開催の取締役会において、富士フィルムファーマ株式会社（以下、「富士フィルムファーマ」）との開発品SO-1105の日本における独占販売に係る契約について決議し、本年2月4日に契約を締結致しました。

SO-1105をより多くの口腔咽頭カンジダ症患者へ供給するべく、感染領域に強みを有する富士フィルムファーマを最適なパートナーと考え、業務提携に至りました。本契約に基づき、そーせいはSO-1105の承認取得、最終製品の製造及び供給に関する責任を負い、富士フィルムファーマが日本におけるマーケティング及び流通販売に関する責任を負います。また本契約によりそーせいは、契約一時金及び一定の条件を満たした場合のマイルストーンを含めて総額9億円を富士フィルムファーマから受領すると共に、販売開始後においては供給価でのマージン及び販売額が予め定めた目標を達成した場合の販売マイルストーンを別途受領できる条件が付与されております。